山梨日日新聞　2011年（平成23年）6月26日　日曜日

# 集団生活慣れ 学習に前向き

大月のフリースクール

## 開校1年「新たな学び場」へ着々

不登校生徒の支援を目的とする大月市のフリースクール「オンリーワン」（井上弥生さん主宰）。開校から1年が経過、生活サイクルに応じた時間割、マンツーマン指導、異年齢交流など独自の活動を展開している。生徒からは「無理なく学習できる」「苦手だったコミュニケーションがとれるようになった」との声が上がる。地元大学生を"先生"に迎えたり、文化祭に住民を招くなど地域との交流もスタート。子どもたちの「もう一つの学びの場」として着実な歩みを続けている。

不登校生徒に学習の場を提供しているフリースクール「オンリーワン」＝大月市御太刀1丁目

## 文化祭開き住民と交流も

「おはようございます」。午前9時50分、ホームルームでの朝のあいさつから「オンリーワン」の一日が始まる。主宰者の井上さんが、その日の時間割の確認や注意事項などを説明した後、一人一人の習熟度に応じた学習へ。14～17歳の年齢が異なる子どもたちが、同じ空間で個別指導を受けている。

「オンリーワン」は、元中学教諭として不登校生徒とも関わってきた井上さんが、長男が不登校になった経験も踏まえ、昨年5月に開校した。自主性をはぐくむ「CL（建設的な生き方）」と呼ばれる教育方法を採用。生徒の生活リズムに応じて通学のペースを設定し、教科書のほか、市販の書籍や資料を教材として活用して学年の枠にとらわれない指導に取り組んでいる。

この1年間、井上さんは「人に迷惑を掛けない」を唯一の校則に掲げ、ほとんどマンツーマンで学習指導に当たった。併せて県内の中学校に出向き、フリースクールの存在を紹介して回った。この春、新入生5人を迎え、生徒は計9人になった。

大月市の女子(15)は「勉強の遅れなど不安があったが、井上先生に『大丈夫』と声を掛けてもらい楽になった」と話す。都留市の女子(15)は「丁寧に指導してくれるので無理なく学習できる。入学時は不安もあったが自分のペースで生活を送っている」と感想。「優しく気遣ってくれる良い仲間に出会えたおかげで、苦手だった集団生活が少しずつできるようになった」と、自分の居場所を見つけられたようだ。

井上さん一人だった指導者も、現在は都留文科大の学生ら6人を講師として登録した。昨年11月には文化祭を開き、地元住民におつけ団子を振る舞ったり、生徒が合唱や手芸、作文などを発表。近くに畑を借り受け、ジャガイモ栽培も始めた。東日本大震災

長野県の通信制高校との連携も始め、条件を満たした生徒は高校の卒業資格を取得できるようになった。女子生徒の一人は「頑張って高校卒業資格を得て、自立した生活を送りたい」と目標を掲げる。井上さんは「ここで学んだことが人の役に立つよう、生きる力を身に付けて巣立ってほしい」と願っている。